

1 学校教育目標

教育基本法、学校教育法及び小学校学習指導要領、学校教育に関わる諸法令・条例及び東京都・足立区の教育目標や基本方針を受け、人権尊重の精神を基盤とし国際化・情報化の社会を自分らしく生き、自己実現できる児童の育成を目指した教育目標を設定し、全教育活動を通してその具現化を図る。

○思いやりのある子 ○よく考える子 ○やりぬく子 ○元気な子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ●夢や希望をはぐくむ学校 ・子供たちの日々の生活に、教育目標や自尊感情が目に見える姿として現れている学校 ・教育への使命感と責任感のもとに協働と研鑽で充実した教育を推進する学校 ・心の通い合う温もりがあり、明るく清潔で安全な教育環境をつくりだす学校 ・教育機能をより発揮するために保護者・地域と連携して子供をはぐくむ学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ●夢や思いにあふれる児童 ・思いやりのある子…互いの人格を尊重し、正義と思いやりをもつ優しい子 ・よく考える子…進んで取り組み、よく考え、伸び伸びと表現する子 ・やりぬく子…目標をもち、最後までやり遂げる子 ・元気な子…安全で健康な生活を心がけ、実行する子
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ●夢を語り、希望を抱かせる教師集団 ・どの子にも内在する「成長する力」を引き出し、子供の夢を育み、よりよい方向に伸ばしていくために、教育の質的向上を目指す努力を続ける教師<自ら学ぶ教師> ・教育目標の達成を目指し、子どもの変化や保護者の要望等を真摯に受け止めながら、全員で創造的・建設的に教育力を高め合う<協働する教師> ・保護者や地域の方に、学校としての説明責任を果たすとともに、教育活動に理解・協力・支援をいただきながら、常に信頼される学校づくりに努める<開かれた教師>

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

新校舎での生活も軌道に乗り、落ち着いた雰囲気の中で教育活動が展開されている。区内有数の伝統を誇る本校に対する地域・保護者の期待は大きく、大変協力的である。児童は明るく素直だが、学習面や生活面で配慮を要する児童もおり、全職員が共通理解のもと、素早く組織的に対応している。若手や新転入の教員も多く、個々の指導力向上と目標達成に向けた共通意識・行動の醸成は課題だが、力量あるベテラン教員がOJTを通して若手の力を伸ばす文化が根付きつつあり、学校全体の総合力を維持している。

【前年度の成果と課題】

1 学力向上

区学力調査の通過率は国語 79.8%、算数 82.5%それぞれ昨年度に比べ5ポイント程度下がった。ただし、区の平均値は上回り、ほぼ全学年・教科で通過率は75%を上回った。また、都や国の調査でも正答率は都・国の平均を上回り、学力ポートフォリオ等に基づく朝学習や放課後個別指導を学校全体の取組として積み上げてきた成果は出ていると考える。意識調査では「勉強が好きだ」や「宿題がない時でも家で勉強する」といった数値が依然区平均を下回る状況が続いており、新学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進め、児童の「学びに向かう力」を醸成していくことが課題である。

2 豊かな心の育成

学校評価項目「児童は仲良く楽しく学校生活を送っている」に対して、100%近くの保護者が肯定的な回答を寄せ、前年度をさらに上回った。なかよし（縦割り）班活動や未就学児・高齢者等と触れ合う学習、いじめ防止やユニセフ募金に関する集会等の成果と考えられる。継続し一層充実させていきたい。新設した「自己肯定感」や「自尊感情」の育成に関する設問は肯定的な回答が97%と高かったが、挨拶や自己表現、挑戦意欲等には改善の余地を感じる。思いやりの心をもって他人に接しようとする気持ちを育むとともに、自らもかけがえのない存在として大切にしようとする心も育てていくことが課題である。

3 体力向上

調査の結果は改善傾向にあるものの、依然として都の平均値を上回った学年や種目は約半数に留まっている。特に中学年以降の記録の伸びが低調であること、中でも区が掲げる「投力」でその傾向が顕著なことに課題がある。運動朝会や運動行事の充実、スポーツ大会への参加奨励、体育科の授業改善等により運動意欲の向上と運動の日常化を一層進め、豊かなスポーツライフを見据えた体力づくりを推進していくことが重要である。投力については、組織的・計画的な取組を立ち上げて改善を図る。

4 重点的な取組事項

番号	内容	実施期間				
		29	30	31	32	33
1	学力の向上	○	○	○	○	○
2	豊かな心の育成	—	○	○	○	○
3	体力の向上	○	○	○	○	○

5 平成31年度の重点目標

重点的な取組事項－1	学力の向上
-------------------	-------

A 今年度の成果目標	平成31年度区学力調査目標通過率と年度末の到達目標
-------------------	---------------------------

表現に関する国語科「話す聞く能力」「書く能力」、算数科「技能」、学びに向かう力「関心意欲態度」の観点別正答率の区平均値+3%	通過率 82%、2月実施の定着度確認テストで通過率 80%以上の児童が 80%以上
--	---

B 前年度の取組み内容

項目	具体的な方策
朝学習（（チャレンジタイム・パワーアップタイム）の効果的な運用	火曜と水曜の始業前10分間、担任が漢字と計算等の既習事項確認テストを実施。即日採点し、定着状況に応じて放課後頑張り教室で個別指導
放課後補習教室（放課後がんばり教室）の実施	月曜は把握したつまずきに応じた演習を中心に、火曜は特に指導が必要な児童に個別指導、木曜はチャレンジタイムの未合格者に再テスト及び補習
若手を中心とした全教員の授業力・指導力の向上と授業改善	足立SDに基づく授業展開や板書及びノート指導の統一、教科指導専門員等の授業観察及び指導の充実、校内・小中連携事業での研究推進
家庭学習の推進	基礎基本の定着を図るため、漢字・計算・音読を基本とした家庭学習を課す。1～3学年は15分×学年、4～6学年は60分として課す

C 前年度の成果と課題

- 朝学習と連動した放課後補習教室の積み上げによって、国語の言語面や算数の技能面は区調査等で平均的な正答率を得たが、観点の中では弱い部分である。質的な改善によってさらなる基礎学力の定着を図ることが課題である。
- 「書く」能力が安定しているのは、ノート指導や百マス作文等の統一実施の効果と考える。授業研究が文化として根付きつつある本校では若手教員も基礎的な指導力を伸ばしている。ただ、今後育成が求められる資質や能力の中でも本校の課題である「学びに向かう力」の底上げに資する力はまだ格差が大きく、その差を埋める必要がある。
- 設定した家庭学習の時間が「できた」と回答した割合は82%である。推移は少なく、未定着の家庭が固定化される懸念がある。その集団へのアプローチを工夫し、定着を図ることが全体的な学力向上に必須であると考え。

D 今年度の目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策
別紙 「平成31年度 学力向上アクションプラン」参照		

重点的な取組事項－2		豊かな心の育成
A 今年度の成果目標		達成基準
自他をかけがえのない存在としてお互いを認めたり、力を合わせたりすることができる「思いやりのある子」の育成		学校評価項目「児童は楽しく学校生活を送っている」の肯定的回答が90%以上
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
心の教育の推進	「いじめ」に関する教員研修と授業を3回以上実施、人権教育年間指導計画に沿った教育活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳授業地区公開講座での「いじめ」に関する授業公開と協議、研修の実施 ・人権教育年間指導計画の組織的で定期的な振り返りと評価する機会の設定
異年齢集団での活動	なかよし（縦割り）班での活動5回以上、交流給食2回、高齢者施設の訪問及び出前授業3回以上、幼稚・保育園との交流4回	<ul style="list-style-type: none"> ・なかよし（縦割り）班ごとの自主性を生かした集会や遊びの設定、異学年同士のランチルームでの給食の継続 ・連携幼稚、保育園の「小学校体験」や高齢者施設の訪問や車いす体験等で交流を深め、「共生」について学ぶ授業の充実
自尊感情や自己肯定感を高める支援の充実	学校評価項目「児童は自分がかげがえのない存在だと思いい、伸び伸びと自信をもって行動している」の肯定的回答が90%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動や地域行事等を通じた児童の活躍の場とそれを認める機会の増大 ・職員の打合で「児童のよさや活躍」についての情報共有
不登校やその傾向がある児童への支援の充実	不登校の出現率前年度比10%削減	<ul style="list-style-type: none"> ・交流夕会での早めの情報共有 ・関係教員や機関の連携による組織的な支援の実施と評価及び改善 ・QU検査の活用による学級状況の把握

重点的な取組事項－3		体力の向上
A 今年度の成果目標		達成基準
心身ともに健康な子供の育成		<ul style="list-style-type: none"> ・都運動能力調査で都平均値を上回る学年や種目が7割以上 ・学校評価項目「学校は体力向上の工夫をしている」の肯定的回答が90%以上
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
体育科授業の改善	都体力調査の児童質問紙調査項目「体育の授業は楽しいですか」の肯定的回答90%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・体育科の公開授業、協議を各学級一回以上実施 ・実技を含む体育科の校内研修会を3回以上実施
年間を通じた体力向上の取組と運動の日常化の推進	都体力調査の児童質問紙調査項目「運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツをすることは好きですか」の肯定的回答95%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の日常化を意図した、運動朝会や集会を年10回以上、運動行事とそれを含む旬間の実施、区主催のスポーツ大会にできる限り参加。 ・休み時間の外遊びの奨励
自己の運動記録に挑戦する意欲の高揚	都体力調査の児童質問紙調査項目「体力テストの結果や体力・運動能力の向上について、自分なりの目標を立てていますか」の肯定的回答が75%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・体力テスト・水泳・持久走・縄跳び等の個人記録を家庭と協力して蓄積 ・連合運動会等も含めた学校最高記録を職員室前に掲示。オリンピック種目については、世界記録等も表示。